全国がん登録から見たルールFの使用状況

白岡佳樹　新居田あおい　大平由津子　寺本典弘
独立行政法人国立病院機構　四国がんセンター　愛媛県がん登録室

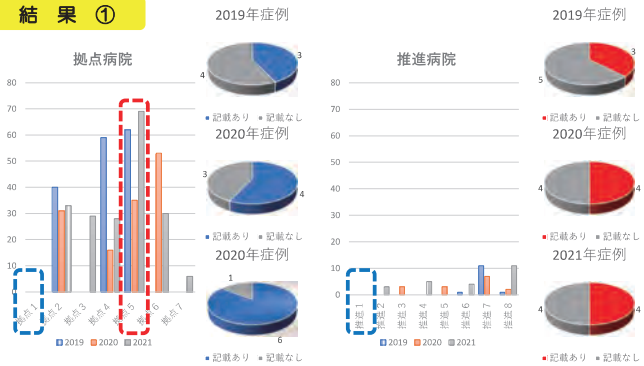
背景と目的

病院・クリニックから提出された全国がん登録届出データを全国がん登録システムに取り込むと、一部のエラー（E4007、E4027）が多く発生する。原因は全国がん登録システムのマスタがICD-O-3.1であるからである。また院内がん登録を行っている施設からの届出データにFルールを使用してコーディングされたデータが含まれており、これらはマスタにないコードの為エラーが表示される。これに対応する為に全国がん登録室側は国立がん研究センターの指示に基づき確認・修正作業を日々行っている。その作業の中で院内がん登録を行っている施設でもFルールの使用の有無や頻度に施設間の差があるのが感じられたので確認・分析を行った。

方　法

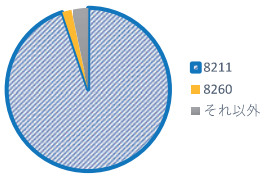
愛媛県がん診療連携拠点病院（以降：拠点病院）、愛媛県がん診療連携推進病院（以降：推進病院）から　提出された届出データで、Fルールが採用された2019年からのデータ3年分（2019年-2021年診断）に関して、病理所見欄にFルール対象である証跡「Fルール」「F01」「F02」「F099」等の記載があるかを確認し集計した。

結　果　①



記載があったのは、2019年症例は拠点病院7施設中3施設、推進病院8施設中3施設、2020年症例は拠点病院7施設中4施設、推進病院8施設中4施設、2021年症例は拠点病院7施設中6施設、推進病院8施設中4施設だった。
一番多い施設は3年間で**166件**、3年間で**0件**だったのは拠点病院で1施設、推進病院で1施設だった。

結　果　②

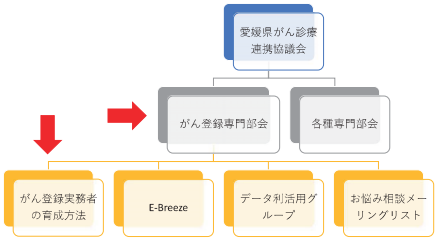


組織コード	件数
8051	1
8070	1
8081	1
8140	1
8211	514
8260	10
8401	2
8441	1
8480	1
8500	4
8507	2
8936	4

Fルールを使用した登録データ542件の内訳は、形態コード「8211/2」管状腺癌（病理所見にtubular adenocarcinoma、tub、M、pTisなどが併記してあるケース）が514件（94.8%）と大多数を占めていた。
2番目に多かったのは「8260」10件だった。

結　論

Fルールの使用状況は,使用の有無だけでなく登録件数でも施設間で大きく差があった。
2019年又は2020年診断にFルールの記載のなかった3施設に確認したところ、院内がん登録システムには正しく“F関係の入力”が行われていたが、全国がん登録届出データに反映されていなかったことが分かった。2021年診断からは正しく反映されており、データ変換システムの問題だったと思われる。
今回把握した状況を、愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会やその中のグループワーク「がん登録実務者の育成方法」にフィードバックを行う。これらの情報還元は今回のＦルールに関してだけでなく、全国がん登録から判明した登録問題点・疑問点を還元することにより、愛媛県のがん登録の精度向上に寄与していきたいと考えている。



※　愛媛県では、愛媛県がん診療連携協議会の中に「がん登録専門部会」を設けているが、その中に各種グループワークを設けて問題解決・質の向上に努めている。

日本がん登録協議会第32回学術集会
COI開示
筆頭演者名：白岡　佳樹
当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません